

くるみざわかせきぐん
「胡桃沢化石群」

町指定（天然記念物）

所在地：大字上平 2493-1 他 所有者：個人 指定：昭和 46 年 9 月 8 日

この化石群は胡桃沢川の左岸に一部露出して産出します。地質年代の「第三紀」の後半、約 2000 万年前この地方は海でした。その海底へ泥（粘土）などが堆積して、別所層という地層ができました。

別所層の頁岩（泥岩）の中に、海の動物（魚類など）と陸の植物の化石が混在している特異の化石群です。植物の化石は、葉・茎片などが主で、魚類の化石は個体・分散した骨格片・鱗などが主です。

魚類では、浅海性のもものでは、テンジクダイ科、表層性のニシン科、カタクチイワシ科など多く産出し、中層性のハダカイワシ科、チゴダラ科、サバ科（イソマグロ）などが見られます。深海性のソコダラ科なども発見されています。ほかに棘皮動物のウニ類など、環形動物（ゴカイ）の化石も産出します。

植物の化石は、暖温帯から亜熱帯の三本針葉マツ、ランダイスギ・セコイア属をはじめとし、構成は多種にわたりますが、ハマビワ（クスノキ科）・ハマボウに近い種類（アオイ科）の暖帯の海浜性の広葉常緑樹などがあり、寒帯性の落葉広葉樹の化石も出ることがあります。

褐藻化石は、ホンダワラ科で、かつて北陸から秩父に及ぶ古海域を示すといわれています。この化石の出る地層は、今から数千万年昔の第三紀のはじめ、フォッサ・マグナという本島を西南日本と東北日本に、分離させた「大きな割れ目」ができ、太平洋から古日本海へ抜けて海峡性の海となりました。その最も海が深くなった時の海底堆積の地層ですが、さらに研究されるにしたいが、興味ある事実が見出されてきています。

これらの化石は、当時の気候、海流や堆積環境などを究明する重要な学術的資料です。

